



ほ 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】 お金の不安という幻想

田内 学 著 朝日新聞出版

ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2025年10月1日 Vol. 276

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡 邊 敏 徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 1660 番地

Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

日本人の美德

私がここ数年感じていることですが、社会の常識やあり様が大きく変化してきていることです。特に「多様性」の言葉が多く聞かれる昨今ですが、今まで大切にしてきた日本的なものの考え方がその「多様性」という一言で片付けられている気がします。

政治の世界では、石破首相の辞任に伴う自民党総裁選が「9月22日告示、10月4日投開票」の日程で実施されます。辞任が遅いと考える人ややめる必要はないと考える人など様々な意見がありました。

「日本人の美德」に照らすと、伝統的には選挙に敗れたら潔く退陣が美德とされます。しかし、現代的には負けても最後まで責任を果たすことが新しい美德とも考えられます。「美德」は時代や状況に応じて揺れ動くものだと思えると単なる賛否を超えて深く理解できます。

「日本人の美德」とは、固定的に決まっているものではなく、歴史や社会背景によって少しずつ形を変えてきた「価値観の集合」のようなものとも言えます。

美德の代表的な考え方としてまずは「他者との調和を重んじる」という考え方があります。「和を以て貴しと為す」(聖徳太子の十七条憲法)に象徴されるように、集団の調和や人間関係の安定を第一に考え、自分の意見よりも全体の空気や状況に合わせる「協調性」が重視されます。その他にも「謙虚さ・控えめ」、「勤勉・我慢強さ」、「礼儀・思いやり」、「清潔・純粋さ」、「自然との共生」などがあります。

「日本人の美德」は「秩序」と大きく関係しています。日本は長い間、村社会や共同体を基盤に暮らしてきました。その中で「和を乱さない」「場の空気を読む」といった行動が生存戦略でもあり「美德は共同体の秩序を守ること」と結びつきやすくなったと言えます。

最近では新聞紙上でも言われていますが、各地の自治体から抜けていく家庭が増えている状況が問題になっています。共同体の秩序が崩れてきていることは、美德が失われていっ

ていくことにも繋がっていると思うのです。「美德」は普遍的価値観、「日本人らしさ」はその価値観をどう表現するかだと思います。諸外国の考え方に学び、多様性を受け入れていく社会も大切ですが「日本人らしさ」を大切に守りながら未来に希望が持てるリーダー(次の首相)が選ばれることを期待したいものです。



病院の赤字

日本の病院の約7割が赤字であるという状況は、近年医療界で深刻な問題となっています。これは単に個々の病院の経営努力不足によるものではなく、日本の医療制度や社会構造に起因する複合的な要因が絡み合っていると言われています。特に自治体病院(公立病院)では9割以上が医業赤字、8割以上が経常赤字となっているという報告もあり民間病院以上に厳しい経営状況にあります。

病院の経営を圧迫している主な要因は、物価・人件費の高騰、診療報酬制度(マイナス改定)、医療・社会構造の変化(少子高齢化と人口減少、病床稼働率の低下)などがあります。これらの要因は病院運営に限ったことではありません。

これらの要因により高額な医療機器や建物の設備投資に多額の費用を捻出できなかったり、人件費を上げることができずに看護師らが処遇改善求め時限ストライキなども起こっています。こんな赤字状況でも多くの病院が倒産せずに存続しているのは(特に公立病院や地域医療を担う病院)、赤字を補填するために国や地方自治体からの補助金を受けているからです。抜本的な改革を進めていかないと地域医療はどんどん崩壊していきます。地域によって大きく異なる各地のニーズと特性を理解した上で、最適な運営戦略を考える必要が急務ですね。



【座右の銘にしたい名言】



自由であるというのは、単に己の鎖を脱ぎ捨てるだけでなく、他人の自由を尊重し、向上させるような生き方をすることである。

ネルソン・マンデラ (南アフリカの政治家)